

令和3年度 あさぎり町立上小学校 学校評価

【教育目標】心身ともにたくましく、豊かな心を持ち、進んで学ぶ児童の育成 【目指す児童の姿】根気強くやり抜く子ども・自他を大切にすることも・主体的に学ぶ子ども

評価項目	具体的実践事項	評価指標（目標値）	取組状況・成果と課題	評価	児童	保護者	教職員	学校関係者からの意見等	改善策		
①心身の健康	基本的な生活習慣の育成	・スマイルウィークチェック活用と家庭啓発	○早寝・早起き・朝ごはんが身についている（児童90%・保護者90%）	・チェック表の活用でノーマディアの達成率も向上している。 ・朝食の欠食がある。 ・体力テスト結果から補強運動を実施できた。 ・感染症対策をとりながら、体力作りに取り組んでいる。	B	86	87	95	・「相談や悩み」については、児童の評価がとても低く、教職員の認識に大きなずれがある。そのずれは何か、しっかり分析する必要がある。 ・子どもたちと先生方が接する時間が不足しているように感じる。	・次年度も定期的にスマイルチェックを実施し、定着と啓発を図る。 ・委員会や縦割り活動での外遊び等を実施し、体力の維持、向上を図る。 ・児童と教職員の評価に開きがある。相談窓口の周知と相談しやすい環境づくりに努めるとともに、教師と児童とのふれあいの時間を創出する。	
	体力の向上	・教科体育における補強運動の確実な実施と運動量の確保	○健康や体力作りに取り組んでいる（児童90%・保護者90%）		A	94	95	100			
②豊かな心	いじめ・不登校の未然防止	・存在感や自己実現の喜びを実感できる支持的な風土の学級づくり（仲間づくり）	○楽しく学校生活を過ごしている（児童95%・保護者90%）	・教室に入れない児童へのサポート、支援があり、組織的な対応ができています。 ・教育相談をその都度実施、保護者との連携に努めた。 ・「児童理解」の時間での情報の共有ができた。 ・「相談」への周知を繰り返した。 ・授業の足跡の提示が不十分。 ・取組の振り返りを数値化、見える化したことで、児童の意欲と職員の意識が高まった。 ・学校での挨拶は概ねできているが学校外での挨拶は「できていない」現状がある。 ・委員会での挨拶運動や集会活動など、主体的な動きが見られている	A	94	95	100	・言葉のやり取りの中でも暴力的な言葉が身近な所でも心配である。心を育む教育を続けてほしい。 ・挨拶は家庭教育、親の責任である。朝から親が「おはよう。」と声を掛けることが必要である。保護者が挨拶できないから子どもたちが挨拶を知らない。親が教えるべきことである。地域の方から挨拶して教えていく。 ・子供たちには厳しさも必要。 ・登校班ではトラブルもあるが児童が成長する場でもある。下級生の忘れ物に対応する6年生の行動に感動した。 ・いじめはどの学校でも起こりうることである。子どもたちをしっかり見守るとともに、毅然とした指導をお願いしたい。	・多くの児童が楽しく学校生活を行うが、登校しづりや不登校児童もいる。 ・次年度も全ての児童の居場所づくりと組織的な相談体制づくり ・登校しづり、不登校児童への組織的対応を継続する。（対策委員会、SCやSSW等外部機関） ・児童の活躍の場を保障する特別活動を実施し主体性の向上を図る。 ・縦割り班活動を取り入れ、縦のつながり構築に努める。 ・「いじめ根絶」月間の位置づけと学校相ぐるみでの取り組みの充実を図る。	
		・日常的な実態把握と迅速な組織的対応 ・定期的なアンケートと教育相談の確実な実施	○学校や学級にいじめがなく、安心して過ごすことができる（児童90%・保護者90%）		B	82	91	100			
	・定期的なアンケートと教育相談の確実な実施 ・相談窓口の設置と周知	○児童の相談や悩みに誠実に対応している（児童90%・保護者90%）	B		67	94	95				
	・「考える道徳」「議論する道徳」の授業改善 ・児童の成長を促す評価の充実	○相手を思いやる言動ができる（児童90%・保護者90%）	A		94	95	95				
	上小プライドへの取組（挨拶・言葉遣い・思いやり・美しい学校）	○学校や地域で挨拶ができる（児童95%・保護者90%）	B		93	90	91				
道徳教育の充実	・児童の主体性を引き出す係活動や委員会活動、学校行事の工夫（児童会スローガン）	○進んで働くことができる（児童85%・保護者80%）		B	84	66	86				
③確かな学力	熊本の学びを踏まえた授業づくり	・授業のデザインシートを踏まえた授業実践 ・「学び合い」「対話」のある授業づくり ・個に応じた指導や習熟度別指導、読み、書き、計算の習得 ・タブレット端末の効果的な活用	○学力を伸ばす授業の工夫をしている。（児童90%・保護者90%） ・授業が分かる（県学調90%） ・最後まで教えてくれる（県学調90%）	・デザインシートに基づく授業を展開し「振り返り」まで全校で取り組んでいる。 ・学習の流れや発表の仕方、板書の方法等がある程度統一したい。 ・授業に基礎学力を育む時間を位置づけたことは良かった。 ・タブレットを含めたICTの効果的活用の実践例が収集できた。全職員で活用を図りたい。 ・タブレットの学習機能を用い個に応じた復習を簡単に行うことで、児童の意欲も向上した。 ・タブレット端末を用いた家庭学習が全学年でスタートできた。児童からは好評。	A	94	95	100	・授業を見たが楽しくやっている。教師の指導が優れていると感じた授業も見られた。 ・学力向上に向け教師が心一つにして取り組んでいるのがよく分かった。グループ学習で意見を出し合いキラリと光る共同活動を行っていた。 ・共通理解のもと職員が授業を進めているのを感じた。 ・子どもが興味をもったことを伸ばしてほしい。	・共通実践事項としての「授業のデザインシート」を加筆修正し全学級での実践を継続することで上小学びのスタイルの定着を図る。 ・主体的な学びを引き出すツールとして、タブレット端末の積極的な活用を図る。	
	家庭学習の習慣化	・家庭学習の手引き、タブレットの活用、合理的配慮	○毎日、家庭学習に取り組んでいる（児童90%・保護者85%）		A	91	83	90			
④連携・協働	五者連携の強化	・気になる児童、配慮を要する児童の家庭との連携の強化（情報の共有と教育相談）	○保護者と連携し誠実に対応している（保護者90%）	・気になる児童には積極的に教育相談を実施し保護者との情報の共有に努めた。 ・計画に基づきウエルカムデーを実施し、学校公開に努めた保護者の参観も多い。 ・コロナ禍で来校していただく機会が減少し、児童の様子を伝え切れていない面がある。HP等の活用を工夫したい。 ・各花壇に常に花がある環境に努めたい。 ・敷地も広く樹木が多いため十分な整備ができていない。	A	/	/	・学校の様子等を回覧板などでも知らせてもらえるとよい。 ・アンケートの回答率が80%だったことについては、何か原因がある。回答率が上がるように工夫を続けてほしい。 ・樹木も多く、また敷地が広いので大変であるが、よく手が行き届いている。	・各種たよりやHPを通じた積極的な情報発信に努める。 ・「愛の123運動」の徹底と教育相談と誠実な対応に努める。 ・メールを用いた調査等は今後も積極的に活用したい。回答率が低かった原因を解明し、改善に努めたい。		
		・「ウエルカムデー」等による授業公開 ・学級たより、HP等を活用した情報の発信	○学校は児童や保護者の様子を伝えている ○学校の教育目標を理解している（保護者90%）		A					90	95
		・花に包まれた潤いのある教育環境の整備	○学校は教育環境の整備に努めている（保護者90%）		A					98	86

評価(%)